

会 師 市 牧 小 苦
医 師

圓 谷 敏 彦

過敏性腸症候群 (刺激結腸症)

不景気風の吹き荒れている昨今、月末には胃のキリキリ痛む思いをされている方も少なくはないでしょう。

昔から緊張が胃痛を引き起こす事はよく知られているとおりで、プロ野球の監督が「胃の痛くなる展開でした」などとコメントしているのをたびたび見かけます。

精神的な緊張が、精神神経面

不愉快だが命に影響はない

に大きな影響を及ぼすのは当然として、胃以外の消化器系統にもさまざまな症状を引き起こします。

時々特別な誘因もなく腹痛が起る。特に左側腹部にキリキリとした痛みがおこり、便意を催すのでトイレにいくと粘液性の下痢便がある。

一度ですっきりと終わったという気分の良さが無い。

朝の出勤あるいは登校前に何度かトイレに行っておかなければ途中でいきたくなりそうまで心配になる。また実際に今にも漏らしそうになるつらい思いを何度かしたことがある。

ゴルフもいいが途中で催したらたまらない…。

調子のいいときには便通の事などほとんど気にならないのに、ちよつとストレスがかかる

と、また同じような症状が現れる。

何か重大な病気がありそうで心配ではあるが、毎日の生活にはそれほど障害もなく、元気に生活している。

下痢をする割には体重の減少も少ない。

お酒をたくさん飲んだ翌日は余計にひどくなる。

数え上げれば切りがないけれ

ど、おのれの身に照らせばいくつかは思い当たる症状は少なくはないはずです。

このような精神的な緊張と関連を持つ腸症状を「過敏性腸症候群」と総称します。

もちろん、このように診断するためには、大腸がんやかいような性大腸炎というような重大な疾患がないことを確認しなければなりません。

子供のときには試験のための勉強、大人になると生き延びるための毎日。この世の続くかぎり過敏性腸症候群に悩まされる人は後を絶たないでしょう。でも安心してください。過敏性腸症候群は不愉快ではあっても、命に影響する病ではありません。

過敏性腸症候群に日々悩まされている本人がいうのですから間違いないはずです。